

＜学力の向上＞

〔4段階評価〕 4：大変よい 3：概ねよい 2：やや改善を要する 1：改善を要する

| 評価項目 | 評価指標 | 具体的目標 | 方策・手立て | 自己評定 | 委員評定 | 結果の考察・分析及び改善策等 【関係者コメント○成果、●課題】 | |
|---------------------------|------------------|---------------|---|---|------|------------------------------------|--|
| 【重点目標】 | | | | | | | |
| ○ 児童一人一人に確かな学力を育む教育を推進する。 | | | | | | | |
| 学 力 向 上 | 学 習 指 導 | 授業改善による指導力の育成 | <p>授業改善の4つのチェックポイントに基づいた授業構想に努める。</p> <p>県・全国学力調査等の結果を踏まえた授業改善に努める。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 教科本来のねらいを達成する授業展開を目指し、日々の授業の工夫・改善を図る。 デジタル教科書及び電子黒板を有効に活用する。 県・全国学力調査等の結果を踏まえ、8月に学力向上研修会を実施し、調査結果を生かした授業改善に努める。 | 3 | 3.2 | <ul style="list-style-type: none"> 初期研修者の研究授業の参観シートに4つのチェックポイントを明示して、教師がポイントを意識できるようにした。教師の授業力向上に終わりはないので、今後も意識して取り組んでいく。 どの教科でも積極的に活用されており、児童の学習内容理解に友好に活用できている。 全国学習状況調査の平均正答率は国語66%（全国比+1.3）、算数69%（全国比-1.2）だった。国語では、説明的文章の指導を通して身に付けさせる文章構成や要約に関する内容に課題が見られた。算数では、問題解決に必要な資料の選択や文章の読解力が求められる問題に課題があった。このような結果を踏まえた授業改善に取り組んだ。みやざき小中学校学習状況調査の結果からも同様の傾向が見られ、次年度の課題である。 |
| | | 読解力の育成 | 書かれている文章を速く正確に読み取ることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 文書を読み取るための視点や方法を示すとともに、読み取ったことを確認する場を設定するなどする。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 授業ではめあてとまとめの整合性をもたせたり、言葉に着目した発問を工夫したりした。また、文章に慣れさせるための問題を家庭学習の課題にするなどした。読解力の育成は長期間の取組が必要であり、今後も引き続き取り組んでいく。 |
| | | 基礎的・基本的な内容の定着 | <p>単元末テスト平均80点以上を目指す。</p> <p>活用問題対策を含めた朝の活動の時間「ぐんぐんタイム」を計画的に実施する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 各教科の基礎的・基本的な内容の定着を図り、「分かる・できる」まで教える指導を徹底する。 アシストシートや国語科の学力調査過去問への取組を継続する。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 国語・社会・算数・理科の単元末テスト平均は、全ての学年が80点を超過しており、目標を達成している。児童のアンケート結果からも、86%の児童が学習内容の理解について肯定的な回答をしている。授業・家庭学習等が全体としてしっかり行われた結果と考えている。 本校で準備した問題に加え、教育事務所が作成した問題を活用した。指導の時間として2学期までは朝の「ぐんぐんタイム」を活用できたが、3学期からの校時程変更に伴いその時間がなくなった。授業時間の工夫や家庭学習を活用したが今後検討を要する。 ○ 児童の学習内容の理解と定着のためにさらに取り組んでいただきたい。 ○ 具体的目標に対して、概ね達成されていると感じた。今後もコロナ禍による様々な問題が想定されるため、ICT活用やその実践の構築が求められていると思う。 ● 正解・不正解ではない、発言（会話）をもっとすることで、活用・応用・表現の力が付くのではないか。 ● 理解する力（飲み込む力）の向上に取り組んでいただきたい。 |

| | | | | | | | |
|------|------|-------------|--|---|---|---|--|
| 学力向上 | 学習指導 | 個に応じた指導の充実 | 町学力向上サポーター及び少人数指導推進教員の有効活用を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 第4学年から第6学年は、町学力向上サポーター等を学年付きとし、国語・算数を中心に少人数指導やTTとして関わりながら、個に応じた指導を行う。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 少人数指導により、きめ細かな指導を行うことができ、学力の底上げにつながっている。 | |
| | | 基本的な学習態度の育成 | 立腰指導を重視し、話を聞く態度を育成する。 予鈴着席及び本鈴黙想を徹底させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 立腰指導を通して姿勢を常に意識させ、やる気や集中力、持続力を高める。 予鈴着席、本鈴黙想を徹底させるため、月1回「チャイムの日」を設定し、落ち着いて学習に取り組む意識を高める。 | | <ul style="list-style-type: none"> よい姿勢を保つことは、学習の基本であるが、成果は長期間の実践を通して表れるため、粘り強く指導を継続する。 予鈴着席は、どの学級もよくできている。黙想は、姿勢や心の落ち着きの面では、質の向上を意識した継続した指導が必要である。 | |
| | 読書指導 | 読書の習慣化 | 読書目標を達成する。 (多読賞目標冊数/学期当たり) 低学年：30冊 中学年：20冊 高学年：15冊 (ファミリー読書目標時間/1日当たり) 低学年：5分 中・高学年：10分 | <ul style="list-style-type: none"> 学年部ごとに設定した読書冊数の目標達成に向け、働きかけを継続する。 親子での読書を奨励し、家庭読書の習慣化を図り、地域の読み聞かせボランティア(木城えほんの郷・おはなしのポケット)の協力を得て、読書活動の充実や読書環境の整備に取り組む。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 例年実施している9月からの図書館イベントに加え、図書委員会の児童で企画した読書祭りを行った。また、ファミリー読書等読書週間も予定通り実施した。これらの取組を通して学校全体として「読書好きな子どもが多い学校」のイメージができてきた。1月中旬段階での学校図書利用総冊数は、約34000冊であり、児童一人当たりの貸出冊数は、約104冊であった。目標は達成しているが、アンケートの「本をたくさん読んでいますか」に肯定的に答えた児童が73%、否定的に答えた児童が26%である。昨年度も同様の傾向が見られており、引き続き本をあまり読まない児童への対応が課題である。 ○ 図書の取組は充実している。 ● 質的なものの底上げをすると理解力・応用力の向上につながる。 ● 昔から読み・書き・そろばんと言われている。基本は読むことが大事だと思う。新聞を読むことも結び付けていかれるとよいのではないか。 ● 読書を積極的に行うことで、イメージ力の向上にもつながる。 ● 読書をすることによって読解力がつくと思うので是非読書の習慣を付けていただきたい。 | |
| | | 家庭学習の充実 | 家庭学習時間を確保する。 (学年部別の家庭学習時間の目安) 1年 20分以上 2年 30分以上 中学年 40分以上 高学年 60分以上 | <ul style="list-style-type: none"> 見直しを図った家庭学習の手引をもとに、家庭学習時間の確保に努める。 学習内容の定着を図るため、学年の発達の段階に応じた適切な課題を与える。 家庭学習内容の点検・見届けに係る保護者への働きかけを継続する。 | | 3 | <ul style="list-style-type: none"> 手引きは、年度当初に児童と保護者に提示しており、一年間の指導の目安にできた。 家庭学習をしっかりとできているかを問うアンケートでは、児童の約90%が肯定的な回答をしている。学校が出している課題は、児童にとって適切な内容や量であったと考えられる。一方、保護者の肯定的な回答は約70%に止まっている。児童は自己評価が甘くないか、保護者は子どもに対する自分の評価が厳しくないか、それぞれに振り返る必要があるかもしれない。 |
| | | 家庭学習 | | | | | |

＜人間力の向上＞

〔4段階評価〕 4：大変よい 3：概ねよい 2：やや改善を要する 1：改善を要する

| 評価項目 | 評価指標 | 具体的目標 | 方策・手立て | 自己評定 | 委員評定 | 結果の考察・分析及び改善策等 【関係者コメント○成果、●課題】 | |
|--|----------|-------------|--|---|------|------------------------------------|--|
| 【重点目標】 | | | | | | | |
| ○ 「凡事徹底」をキーワードに、児童一人一人に豊かな心を育む教育を推進する。 | | | | | | | |
| 心の教育 | 基本的な生活習慣 | 凡事徹底の強化 | 凡事徹底を踏まえ、当たり前のことを当たり前徹底して行おうとする意識を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> 『あいさつ』『返事』『はきものならべ』『右側歩行』『予鈴着席・本鈴黙想』の「当たりの五か条」を『基本の凡事徹底』とし、定着を図る。 | 3 | 3.2 | <ul style="list-style-type: none"> 凡事徹底が心にかけているかに関するアンケートに対し、90%の児童が肯定的に回答している。教師の目から見ても「予鈴着席・本鈴黙想」は、徹底が図られてきている。また、トイレのスリッパについては、並べていることが多くなってきている。今後も粘り強く指導を継続することが必要である。 ● 指導の継続が重要と思う。家庭教育（保護者）も関係するため、福祉的要素の部分も含めて、その状況に応じた分析や対策、方向性など、今後も工夫した実践が大切になると思う。 |
| | | 相手を思いやる心の育成 | 集団活動を通して、規範意識をもち、自分も相手も大事にしながら助け合う態度を育てる。 | <ul style="list-style-type: none"> 学校全体や各学級で自己存在感を高め、相手を認め、思いやる心を意識させる指導を行う。 | | | <ul style="list-style-type: none"> 生活のきまりを守ることにに関するアンケートでは、84%の児童が肯定的回答をしている。今後は廊下歩行を中心に規範意識の向上を図りたい。 ● 規範意識の向上の指導をすることは、子ども達の間で一番大切なことかどうかは疑問が残る。制約が多すぎるのではないか。 ● 生活のきまりを家庭でも作ってみたいらどうか。規範意識が低いように思える。 ● 人と人とのつながりが大切だと思う。 ● 弱い者（動物・植物を含めて）をいたわる気持ち、大切にする気持ちの意識向上に取り組んでいただきたい。 |
| 心の教育 | 基本的な生活習慣 | 生徒指導の充実 | 児童の自主的な活動を促す。 基本的な生活習慣を身に付けさせ、規範意識を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> 一日の落ち着いたスタートを切るための児童の自主的な活動として、登校後の静かな読書及び「月の歌」の歌唱への働きかけを継続する。 生徒指導の三機能を意識した授業の実践と、称賛や承認の場を意図的に設定し、児童の自尊感情を高める。 あいさつ・返事を中心に指導を徹底する。 | 3 | | <ul style="list-style-type: none"> 朝の歌は定着しているが、読書については、十分とは言えない。登校後の読書が本校の児童の実態に合った取組なのかという面からも検討していきたい。 教師の基本的な姿勢として児童の頑張りを認めることを重視した指導ができつつある。 あいさつに関するアンケートは、肯定的回答が児童は89%、保護者は61%であり、家庭や地域でのあいさつに課題があることが伺える。しかし、コロナ禍で評価するのが難しい面もある。 |

| | | | | | | | |
|------|--------------|---|---|---|--|--|---|
| | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃場所でのチャイム黙想と無言清掃を徹底する。 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 月に1回ではあるが校門前であいさつ運動をしている。子ども達はみんな元気にあいさつをしてくれる。 ・ 学校全体としてよい状態にあると捉えている。今後は、清掃の質を高める指導を工夫したい。 |
| 生徒指導 | いじめ・不登校対策の充実 | いじめ及び不登校対策として、教育相談の充実とラポール委員会の適正な運用を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的なアンケートと教育相談を実施する。また、ラポール委員会を充実させる。 | 3 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童に対する教育相談を始め、終礼において職員の情報共有を図るなどし、いじめの未然防止や早期発見に努めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「安全に気を付けて生活しているか」問いかけたアンケートに対しては92%の児童が肯定的回答をしている。この結果は、教師の捉え方とはずれを感じる。実際に、校外生活において大きな事故につながりかねない事案もあった。今後も、未然防止の観点から、安全に対する児童の意識向上に努めたい。 |
| | 交通安全指導の徹底 | 交通安全指導を徹底し、児童の安全確保に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通安全指導について継続的に実施し、意識の啓発を図る。 | | | | |

＜健康・体力の向上＞

〔4段階評価〕 4：大変よい 3：概ねよい 2：やや改善を要する 1：改善を要する

| 評価項目 | 評価指標 | 具体的目標 | 方策・手立て | 自己評定 | 委員評定 | 結果の考察・分析及び改善策等 【関係者コメント○成果、●課題】 |
|---------------------------|-------|---|--|--|------|---|
| 【重点目標】 | | | | | | |
| ○ 児童一人一人に健やかな体を育む教育を推進する。 | | | | | | |
| 体力向上 | 体力づくり | 体力の向上 体育学習及び体育的行事、日常的な運動の呼び掛けから、体力の向上を目指す。 運動技能・運動能力を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の時間の導入時になわとび、持久走など体力づくりのための基本運動を取り入れる。また、体力向上月間を設定し、なわとびや持久走等の体づくり運動を計画的に実施する。 ・ 昼休みの外遊びを奨励し、遊びの中で運動量を確保する。 ・ 体育指導を計画的に進めるとともに、体力向上プランを適切に実践することを通して、「握力」「20mシャトルラン」「ソフトボール投げ」の能力を高める。 ・ 体力テスト結果をもとに、個人カードを用いて、個人目標をもたせながら継続的に取り組ませる。 | 3 | 3.2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 縄跳び月間は検定表や職員室前掲示物を活用し、持久走大会は、朝にランランタイムを設けるなど、全校での取組を実施した。いずれの取組も意欲的な児童の姿が見られた。また、体力テストの結果より、柔軟性に課題があることが分かったので、今後は朝の短時間を活用した取組を行う予定である。 ・ 昼休みの外遊びについては、十分な手立てを講じることができず、今後の課題である。 ● 子どもの成長にとって遊びはとても大切なので、休み時間思い切り自由に遊ばせてほしい。 ● 体力向上には、普段の生活の中に運動を取り入れることが大切である。 ● コロナの中で取組が困難であると思うが、昼休みなど活用をお願いしたい。 ・ 握力はどの学年も県平均を上回ることができた。下回っていたソフトボール投げでは、児童が練習を十分にできるようボールなどの用具を揃えた。体育科の学習内容で「投」の動きの上達が必要になるものについての指導方法の工夫を行っていきたい。 ・ 「宮崎県体力テスト目標設定システム」を活用し、昨年度の記録を基にした目標を設定した。体力テスト後に目標に対する振り返りをするなど、児童の意欲を喚起する手立てをさらに工夫したい。 ● 体力向上プランを適切に実践してもらいたい。 |
| | 健康教育 | 健康的な生活習慣の定着 | 朝食摂取や就寝時刻等の実態を把握し、健康な生活への意識付けを図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活リズムを身に付けさせるために、健康観察や日々の保健室対応から、児童一人一人の心身の状況や疾病等の様子を把握し、必要な指導を行う。 | 3 | 3 |

| | | | | | |
|------------------|----|------------|--|---|---|
| 体 力 向 上 | | | <ul style="list-style-type: none"> 健康診断による結果は、家庭と協力しながら、早期の受診につなげるとともに、保健だよりによる家庭への働きかけを継続する。 むし歯予防とむし歯治療の働きかけを推進する。 | | <ul style="list-style-type: none"> 年度当初の歯科検診等の結果をもとに、保護者への啓発文書を発送したり、様々な機会に治療の達成状況を知らせたりしている。1月末段階での治療率は70%である。2月にも治療に関する文書を配付し、むし歯予防と治療の推進を行う。 「手洗い・消毒」に関する保護者アンケートでは、86%が肯定的回答をしている。今後も学校と家庭で協力しながら感染対策に取り組みたい。 |
| | 食育 | 食に関する指導の推進 | <p>安全に配慮した給食指導の充実を図る。</p> <p>食に関する指導の充実を図る。</p> <p>年2回の「弁当の日」の取組を推進する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 給食当番をはじめ、係の仕事内容を明確にして安全に活動させるとともに、係以外の児童は全員席に着いて静かに待たせることを徹底する。 給食時間の適切な運営を目指し、搬入→配膳→食事→片付け→搬出の一連の流れをスムーズにさせるための現場指導を重視する。 給食センターや保護者との連携の下、食物アレルギーによる事故を未然に防ぐ。 低・中学年の学級活動や高学年の家庭科での食に関する指導において、栄養教諭(学校栄養職員)とのTT指導に当たる。 ワークシートを活用し、弁当の日の取組を充実させる。 | <p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でもあり、給食時間に「黙食」の呼びかけを放送で行うことで、食事時間の会話を控えることに対する意識が高まり、給食当番及び配膳を待つ児童の態度もよくなっている。 給食時間の流れはスムーズだったが、3学期は校時程変更による給食時間短縮があり、短くなった時間に適応させる指導を行っている。 給食センターや関係職員の尽力により、食物アレルギーの事故も現在起きていない。 食育自体は実施できているが、栄養教諭とのTTによる指導は、コロナ禍であり実践が難しかった。次年度、感染状況を見ながら計画したい。 1学期の遠足と、2学期の運動会の前日に「弁当の日」の取組を行うことができた。 ● 食育の充実に取り組んでいただきたい。 ● 学力と体力の向上は両輪であり、それぞれの向上バランスも大切かと思う。コロナ禍による様々な制限があり、健康教育や食育面を含めて厳しい状況が続くが、大学連携事業(九保大・鹿屋体育大)を有効に活用していただければと思う。 |

＜特別支援教育の充実＞

〔4段階評価〕 4：大変よい 3：概ねよい 2：やや改善を要する 1：改善を要する

| 評価項目 | 評価指標 | 具体的目標 | 方策・手立て | 自己評定 | 委員評定 | 結果の考察・分析及び改善策等 【関係者コメント○成果、●課題】 |
|--------------------------|-------------|-------------------|---|------|------|--|
| 【重点目標】 | | | | | | |
| ○ 心豊かな児童を育てる特別支援教育を推進する。 | | | | | | |
| 特別支援教育 | 児童理解と組織的な支援 | 支援を要する児童の理解 | 児童理解と組織的な支援に努める。 | 3 | 3.2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育コーディネーターが計画を立て、児童の個性や学習内容に応じた支援体制をとったことで、児童の個性や学習内容に応じた支援を行うことができ、児童が落ち着いて前向きに学習に取り組むことができた。 ● 一人一人に合った教育をお願いしたい。 ● 子どものよい面、得意なことを見つけ、伸ばしていくように取り組んでいただきたい。 ○ 学校見学をした時に、サポーターの方のを知ることができた。 ○ サポーターの活用が十分図られている。今後も継続して充実を図っていただきたい。 ・ 年度当初の研修や終礼等で共通理解の場を設定し、職員の共通理解を図ることができた。 ・ 6年生が県立児湯るびなす支援学校在籍児童との交流を実施できた。また、新入学児童保護者説明会において、特別支援教育に関して説明するなどして保護者への啓発を図ることができた。 |
| | 関係諸機関との連携 | 地域全体で特別支援教育を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 町雇用特別支援教育サポーター2名を通常学級に計画的に配置することにより、通常学級、特別支援学級在籍を問わず、個に応じたきめ細かな指導を行う。 ・ 特別な教育的支援や配慮を要する児童について、全職員で共通理解を図り、指導に当たる。 ・ 職員や通常学級の児童、保護者へ障がいがある児童に対する理解を深め、心豊かな児童を育てるために、交流教育・福祉教育を実施する。 | | | 3 |

＜信頼される学校づくり＞

| 〔4段階評価〕 4：大変よい 3：概ねよい 2：やや改善を要する 1：改善を要する | | | | | | |
|---|--------|------------|--|---|------|---|
| 評価項目 | 評価指標 | 具体的目標 | 方策・手立て | 自己評定 | 委員評定 | 結果の考察・分析 及び改善策等 【関係者コメント○成果、●課題】 |
| 【重点目標】 | | | | | | |
| ○ 信頼される学校づくりを推進する。 | | | | | | |
| 信頼される学校づくり | ふるさと教育 | ふるさと教育の推進 | ふるさと木城に学び、誇りや愛着を生む教育を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な体験活動を通して、地域の文化や人との関わりを学ぶ学習を実施する。 ・ 総合的な学習の時間や学校行事等に、地域のよさを知るための教材を取り入れる。 ・ 小中一貫合同研究会において、「ふるさと教育」及び「キャリア教育」を中心に、義務教育学校への移行に向けた取組を推進する。 | 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 町の支援をいただきながら、生活科・総合的な学習の時間において、バスを利用して様々な場所に出向き、見学や体験活動を実施することができた。 ・ 総合的な学習の時間の年間計画を見直し、児童がより木城町のよさを知ることのできるカリキュラムを構築しつつある。 ・ 小中合同の研修でふるさと教育やキャリア教育の目指す児童像等について、より考えを深めることができた。 ● 地元愛、生徒愛を力強く取組んで信頼を高めてほしい。 ● 学年単位での地域活動を実行してほしい。 ● 木城の子はみんなよい子ばかりである。楽しく明るい学校づくりに取り組んでいただきたい。微力ながら優しく見守っていきたい。 |
| | 人材活用 | 地域素材・人材の活用 | 地域の物的・人的教育資源を生かした学習を重視する。 参観日の出席率80%以上を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「木城っ子安全守る隊・応援隊」の協力による登下校及び教育活動の見守りを継続する。 ・ PTAによる登校立番指導を学期1回実施する。 ・ 参観日の懇談会・HP・安心メール等による定期的な情報発信に努める。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 例年お世話になっている方々に加え、ふるさと教育で多くの地域の方々に協力をいただくことができた。 ・ 予定通り実施していただき、児童の登校の様子を見守っていただきありがたかった。 ・ どの学年も参観日の出席率は80%を超えることができた。日常の担任の努力と保護者の方々の協力のお陰だと考える。また、ホームページを定期的に更新することができ、学校の情報を外部に発信することができた。 ● 町の人たちに学校のことを知ってもらうことが大切なので、さらに情報発信をしていただきたい。 ● 学校参観を地域にも開き、学校公開の日があるとよい。 ● 家庭と学校のコミュニケーションを強化してほしい。 ○ 地域の方々とのつながりを取り入れ充実していると思う。今後も積極的に地域への発信、受信をしていただきたい。 ○ 来年度予定している3者面談は大賛成である。保護者ももっと前向きな気持ちで気軽に学校と関わるとよい。 ● 学校と家庭（保護者）の協力、連携につきて思う。ぜひ、三者面談を実施していただきたい。 |

| | | | | | | |
|--|------|------------|---------------------------------------|---|---|--|
| | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ● 義務教育学校の設立に向けて、学校・家庭・地域の一体性をどのようにつくり上げていくか難しい課題でもあるように感じている。階段を上がるように一歩ずつ丁寧な学校づくり、地域との共存づくりが進められればと期待している。 |
| | 職場環境 | 働きやすい環境づくり | 教職員の働きやすい環境を整え、ワークライフバランスのとれた学校を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 人的配置やICTを活用し、働きやすい職場環境づくりを推進する。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 校務支援システムの活用が図られるようになり、出席簿の管理や情報の伝達・共有等について職員の負担軽減につながっている。 ● 教職員の働きやすい環境づくりは基本であり、更なる負担軽減も含めた改革も必要である。 ● 先生にゆとりがないとよい教育はできない。清掃をカットして時間を確保するという考え方もある。 |
| | 学校評価 | 学校評価制度の活用 | 年3回の学校運営協議会を実施し学校評価結果を生かした教育課程改善に努める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 組織としての学校運営に努めるとともに、学校自己評価結果を改善に生かす。 | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 委員の方々から貴重なご意見をいただくことができた。日常の教育活動及び学校の経営ビジョン策定等に生かすことができるようにする。 |

< 校長所見 >

次年度の方向性についての校長の所見

学校経営ビジョンを基に、「みんなの学校をみんなとつくる」ことを常に意識しながら「学力の向上」「人間力の向上」「健康・体力の向上」「特別支援教育の充実」「信頼される学校づくり」の5つの観点から学校経営を進めてきた。

「知育」に関しては、授業改善の4つのポイントを重視し、児童が「分かる・できる」まで教える授業づくりを推進してきた。また、立腰指導やチャイム黙想を基に、望ましい学習習慣を定着させた上で、基礎学力の定着を図った。特に算数においては、町雇用の学力向上サポーター等を効果的に活用し、きめ細かな指導ができた。各種調査等の結果から基本的な学習内容は定着していると考えている。しかし、主体的に学習に取り組む態度や読み取ったことを基にまとめたり表現したりする等の活用の面では課題がある。読解力の向上を含め、次年度の課題と捉え、指導方法等の工夫・改善を図りたい。また、読書指導に関しては、質の向上の視点をもちながら推進していきたい。

「徳育」に関しては、深刻ないじめ事案が無かったことは評価している。また、予鈴着席・本鈴黙想等、児童がきまりよい学校生活を送る観点から基礎になる部分もできている。一方で、あいさつや廊下歩行等については課題が見られる。あいさつは以前と比べて改善しているが十分とは言えない。現場指導を行いつつ、他者と豊かな人間関係を築くことのよさを感じ取らせるなど、家庭・地域と連携し、あいさつを下支えする内面的な指導の工夫・改善を図りたい。

「体育」に関しては、体力テストの結果を生かしつつ、児童がバランスよく体力向上を図ることができるように指導を継続している。運動の生活化の観点から昼休みの外遊びを奨励し、授業と日常生活の両輪で体力の向上を図ることができるようにしたい。感染症対策については、養護教諭を中心に組織的な対応を充実させることができた。次年度も同様の対策を継続する。健康的な生活習慣の定着の面では「早寝・早起き」等に課題が見られる。原因として電子メディアの影響も考えられる。このことについては、アウトメディア週間の継続等、家庭を巻き込んだ取組を継続することが必要だと考えている。

「特別支援教育」に関しては、特別な教育的支援や配慮を要する児童の支援について、全職員で共通理解を図りながら推進できた。特に、町雇用の特別支援教育サポーターについては、特別支援教育コーディネーターの計画の下、十分な活用を図ることができている。支援学級在籍児童だけではなく、通常学級在籍の児童に対しても、実態に応じた支援を行っており、次年度も今年度同様に計画的な活用を図っていきたい。

「信頼される学校づくり」に関しては、生活科・総合的な学習の時間を中心に、ふるさと教育を充実させることができた。次年度は、さらに内容の充実を図りたい。また、ホームページを定期的に更新したり、必要に応じ安心メールを活用したりして、学校からの情報発信に努めた。しかし、感染症対策のために参観日を中止せざるを得ないなど、学校と保護者のコミュニケーション不足は否めなかった。来年度は、夏季休業中に担任・保護者・児童による三者面談を実施し、学校と保護者の協力体制を築いていきたい。教職員の働き方改革については、校務支援システムの活用や業務内容の見直し等を図り、教職員が働きやすい環境づくりに努める。

次年度は、施設併設型の小中一貫校となり、5・6年生の教科担任制など様々な改革を行う。さらに、令和5年度には、義務教育学校開設を控えている。このような大きな変化の中で、今を生きる児童と教職員にとってのよりよい学校づくりのため、「みんなの学校をみんなとつくる」ことを大切に学校経営の充実を図りたい。